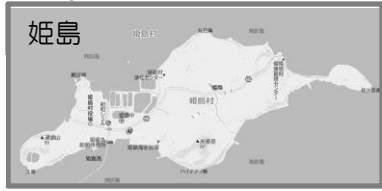
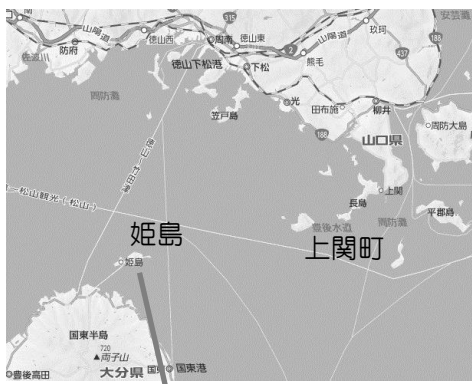


# 過疎化対策としての ワークシェアリング

## 大分県・姫島村

姫島村は、瀬戸内海の西端、大分県国東半島の北、5キロの海上に浮かぶ周囲17キロ、人口約2100人の島で、大分県で唯一の村です。主な産業は、沿岸漁業と車工ビの養殖です。「姫島車工ビ」は、大分県の特産品として全国に知られ、また、子供達に、白い化粧をして、狐に扮装して踊る「キツネ踊り」も有名です。



この姫島村で昭和40年台から行われているのが、過疎化、人口減対策として、若者を村に残すために始められた、役場のワークシェアリングです。

離島という立地条件のため、村外からの民間企業の進出は難しく、村の活性化を図っていくためには、地場産業の育成と若者をはじめとする雇用の場の確保が大きな課題となります。このため村内で最大の雇用体である役場が、「官」ができることは「官」がやるという方針のもと、「職員」の給与を低く抑えて、できるだけ多くの職員を雇用する」という雇用対策をとってきました。

現在、役場の職員は約200人で、人口10人に1人が役場の職員ということになります。ただし、そのうちの130人は、診療所、フェリー、高齢者生活福祉センター、保育所、清掃センター等、現場の職員です。

最近では、さらに多くの人を雇用する手段として、主に主婦を対象に、月3分の2の勤務日数で、給与も3分の2とする雇用形態もとられています。

このため、役場職員としての給与水準は全国で最も低くなっていますが、農協、漁協、えび会社といった村内の主な職場の職員の給与と比較すれば、かなり高い状況で、姫島で暮らしていくには十分な給与が確保されているようです。

姫島村長は、「過疎化、人口減を防ぐための姫島村の方策は、これがベストではないかもしれませんが、ベターであると考えています。村民はもちろん、職員も、採用の時点で、役場の給与の考え方について納得しております。また、当然のこととして村長、議員の給与、報酬も低く抑えています。」「とコメントしています。

このワークシェアリングの施策によって若者の雇用がある程度確保されている結果、村の高齢化率は33.6%にとどまっており、大分県で限界集落が一つもない唯一の自治体となっています。（ちなみに上関町の高齢化率はおよそ47%です。）

このように、役場のワークシェアリングは過疎化対策にある程度の効果を発揮しているようです。2010年の国勢調査で、中国地方5県で最も人口減少の割合が大きい市町村の第1位となってしまう上関町としても、役場のワークシェアリングの本格的な導入を検討してみてもどうでしょうか。

# スー・チーさんからのメッセージ 「自信と勇気を持とう」

ミャンマーで民主化運動を率いてきたアウン・サン・スー・チーさんが先日来日しました。軍部が今も政治に大きな影響力を持ち、ミャンマーでの民主主義の実現はまだ道半ばですが、テレビのインタビューにこたえる彼女の揺るぎない信念に満ちた言葉は、私たち日本人にも、そして町の将来が不透明になっている上関町民にも勇気と希望を与えるものでした。



「ミャンマーの民主化」を目指すスー・チーさんの言葉を、「上関町の再生」を願う私たち上関町民の立場から、もう一度、かみしめてみたいと思います。

◎「この国のよりよい未来に大切なのは、国民和解、そして協力だと言ってきました。共通の願いや目標に向かって協力することです。何もかもこちらの欲しいものを手に入れるというのではありません。ギブ・アンド・テイクは100%こちらの要求を通すというのではなく、相手の立場もよく理解することです。そして両者が新しい状況で何かを得るという状況です。」「

・原発誘致への意見の違いで町民が二つに分かれてしまい、互いに協力しにくい状況が続いている上関町ですが、町の将来について、共通の願いや目標は持っているのではないのでしょうか。その共通の目標に向かって協力していけるように勇気をもって歩み寄ることが必要だと思えます。

◎「人々が変化を引き受けるには、安心感というものが重要です。変化とは、何か未知の新しい領域に足を踏み入れることです。それをしても大丈夫だと思えることが必要です。それは軍だけでなく、誰にも言えることです。何か新しいことを始めるときは、新たな場所に行ったとしても、大丈夫だという自信が必要なのです。」「

・「上関町の再生」には、「上関町の変化」が求められます。それは、私たち町民にも意識の変化が求められるということです。原発に対する意見の違いを乗り越えて、協力することができるか。協力することを妨げない環境を作れるか。それが町の再生の第一歩だと思えます。

◎「私は国民に自立して欲しいとも思っています。私や、私の党や他の党に頼って、自分の望みをかなえようとせずに、参加して欲しいのです。人生でただで手に入るものは何もありません。何かを求めるのなら努力しないといけないのです。何もせず、ただ希望しているだけ、他の人がやってくれると期待するだけではだめです。自分でやらなければなりません。」「

・上関町の再生は、私たち上関町民の力でやらなければなりません。町民の努力と協力がなくては、何も実現できないでしょう。私たち一人ひとりが、町の再生に対して何ができるか考え、小さなことでも実行すれば、状況は少しずつ変わっていきます。上関町の再生には、私たち町民が自信と勇気を持って動くことが必要なのです。

◎「わいわいタイムス」6月号は6月2日(日)発行予定です。